

年間業績発表 棚卸資料

部門 入所 / 通所 / 訪問
PT / OT / ST
コアカリ()

当施設ハビリテーション部では、質の評価をドナベディアンモデルを使用して毎年棚卸を行っています。棚卸の目的は、在庫や品質を把握することで、課題に対して今後活かすために実施します。ドナベディアンモデルは、医療の質を評価する際によく用いられます。これは、「構造 structure」、「過程 process」、「結果 outcome」の3つの側面で評価します。評価結果を下記にまとめてみてください。

《年間目標》

- ① 転倒転落件数の減少: 目標150件以下(転倒予防評価の活用方法を検討)
- ② フレイル対策(肺炎予防、活動量の向上)
- ③ 質の向上

● 構造 structure

【物的資源】

・PT評価バッテリー、自主トレーニング大全

【人的資源】

・PT10名(管理者1名、訪問4名、入所3名、通所2名)
・所有資格: 3学会合同呼吸療法認定士3名、転倒予防指導士1名、臨床実習指導者講習会終了者6名

【組織的特徴】

・新人教育でバイザー制度を導入
・文献抄読とケースカンファレンスの実施
・実習生への指導

● 過程 process

① PT評価の内容を検討

(入所) 膝伸展筋力、CS-30、握力を導入 (通所) 機能評価、データ入力を継続

(訪問) SFBBS、2ステップテストの導入を検討

・部内でのヒヤリハット報告継続

② 他職種と連携して姿勢評価方法を検討

・自主トレーニング大全のメニューを検討

③ 新人教育: バイザーの選定。新人PTの単位設定を実施(タイムスタディ: 7月~12月)

バイザー面談を7月、11月に実施(3月にも実施予定)

大阪府理学療法士会の新人症例発表会に参加(1月)

・文献抄読4回、ケースカンファレンス3回実施

・装具難民撲滅プロジェクトチームを(4名)を発足、装具に対する知識を深めた

● 結果 outcome

① 転倒転落件数221件(R6.2月時点)

PT評価(入所) 入所6ヶ月以降は対象者に合わせて評価内容選択→BBS/TUG、膝伸展筋力/CS-30

(通所) 機能評価、データ入力を継続 (訪問) SFBBS、2ステップテストの導入を検討中

② 肺炎での入院件数20件(R6.3月時点)

ST、OTと連携して食事姿勢などについて評価・検討する機会が増えた

・自主トレーニング大全のメニューを追加、修正

③ 新人PT→タイムマネジメントができるようになり、先輩セラピストの助言のもと理学療法を実践することができた

・文献抄読5回予定していたが、5回目は延期。(歩行分析ソフトや治療機器などの導入検討のため、説明会開催)

ケースカンファレンス3回(通所・入所・訪問)実施

・装具に関する研修会に参加

R5年度の装具実績: 装具の作成4件

《次年度持ち越し課題》

PT評価の検討、データ集計・分析

フレイル対策(姿勢評価方法の検討、自主トレーニングできる環境調整)